

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】(中学校用)

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 鳥取県 |
|-------|-----|

学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | |
|-----|-------|----|----|------|-----|
| 学校名 | 名和中学校 | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 3 | 21 |
| 生徒数 | 77 | 74 | 74 | 5 | |

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力」を身につける確かな学力の向上をめざして
 ~個に応じた指導を通して、基礎基本の定着と豊かな表現力の育成~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・2年生・国語(少人数指導)
表現力を育てるためには、その基礎となる国語の「聞き取る力」や「書く力」が不可欠であるため
- ・全学年・数学(少人数指導)
生徒の理解の状況に差がしやすい教科であり、少人数指導の効果が現われやすいと考えられるため
- ・2,3年生・英語(少人数指導)
生徒の理解の状況に差がしやすい教科であり、少人数指導の効果が現われやすいと考えられるため
- ・1年生・理科、社会
評価と指導の一体化はどの教科にも共通する課題であり、学習方法の深化・定着を研究するため
- ・3年生・保健体育
様々な表現力の中で、体全体を使って表現することが可能であるため
- ・全学年・総合的な学習(特別活動)
体育祭、文化祭などの行事の取り組みにおいて、かかわりの場面を多く設定することにより自己表現のできる人間関係づくりができるため
- ・全学年・総合的な学習(人権・同和教育)
集団の中で、自分の思いや願いが語れる基盤としての豊かな人間関係をつくる必要があるため
- ・小学校6年生・算数(小中連携指導)
校区内3小学校の学級担任による指導の差が出やすい教科であるため

(2) 年次ごとの計画

<平成15年度>

テーマ「生きる力」を身につける確かな学力の向上をめざして
 ~個に応じた指導を通して、基礎基本の定着と豊かな表現力の育成~

研究内容・方法

- ・基礎的基本的な学力の定着を図るための指導方法・指導体制の工夫・改善
- ・自己表現力の育成
- ・フロンティアティーチャーを中心とした小中連携の推進

<平成16年度>

テーマ（平成15年度と同じ予定）

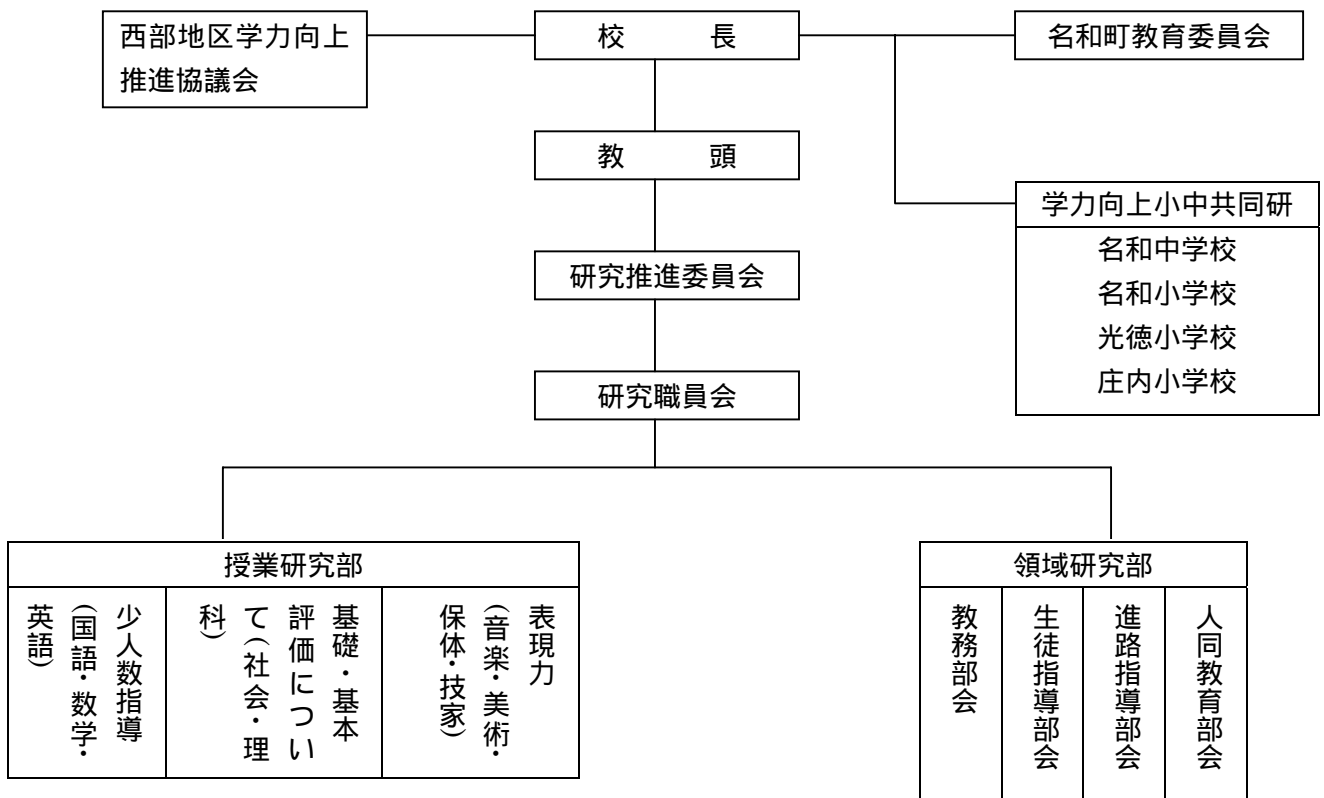
研究内容・方法（予定）

- ・基礎的基本的な学力の定着を図るための指導方法・指導体制の工夫・改善
- ・自己表現力の育成
- ・フロンティアティーチャーを中心とした小中連携の推進・充実

(3)研究推進体制

研究推進委員会

教務、研究主任、人同主任、特活担当、進路指導主事、フロンティアティーチャー



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<少人数部会>

(国語)

- ・「作文コース」では、文章を書くことに対する抵抗感が減少した。
- ・少人数指導のため、思ったことや感想を言える生徒が増えた。

(数学)

- ・基礎コースでの基礎学力の定着が見られた。

- ・最初から問題を解くのをあきらめる生徒が減った。(8 % 5 %)
- (英語)
- ・コース制導入により、意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。
- < 評価・指導部会 (社会) >
- ・自己評価カードを記入させることによって、理解が不十分な箇所を次の時間に補足説明し、基礎学力の定着を図ることができた。
- < 表現力部会 >
- ・保体 ダンスでは自分の気持ちを体全体で表現することができた。
- ・技・家 自分の目的にあった作品の設計・製作に取り組めた。
- ・美術 基礎基本の定着を図りながら作品制作に取り組めた。
- ・音楽 パート別やグループ練習で生徒が主体的に表現しようと工夫した。
- < 領域部会 (特活) >
- ・体育祭の縦割りの取り組みや文化祭のステージ発表などの取り組みの中で自分の立場や役割を自覚した行動や発表ができた。
- < 領域部会 (人同) >
- ・1年生で少人数による授業(道徳) を実施し、効果があった。
- < 小中連携指導 >
- ・小学生の64%が中学校の先生に教えてもらい「良かった」と肯定的に捉え、否定的な児童はわずかであった。
- ・共通教材「算数のまとめ」を作成し、基礎学力の定着も見られた。

2. 今後の課題

- < 少人数部会 >
- (国語)
- ・自分の考えや意見を言えるようになったが、まだ討議力は不十分。
- ・月例テストの聞き取り問題で全学年の共通問題を作成する必要がある。
- ・発問の仕方やグループ分けの方法について研究する必要がある。
- (数学)
- ・学年によってコース数を設定することが必要である。
- ・コースに応じた教材開発のために、教科会を定期的に持つ必要がある。
- ・数学的な考え方を育てることが必要である。
- (英語)
- ・家庭学習に課題を設定し、日々の授業を充実させていく必要がある。
- < 評価・指導部会 (社会) >
- ・支援を要する生徒へのより効果的な指導方法を工夫する必要がある。
- ・自己評価の内容・活用方法を工夫する必要がある。
- < 表現力部会 >
- ・保体 自分の思考したことを身体を使って表現できる力をつける。
- ・技・家 製作の過程を大切に作品づくりに努める。
- ・美術 基礎基本の定着と発展性のある題材の開発に努める。
- ・音楽 グループ活動を多く取り入れた生徒主体の授業づくりに努める。

<領域部会（特活）>

- ・集団演技のような全校で一つのものをつくりあげていく実践をする。

<領域部会（人同）>

- ・職員の共通理解や研修を深めるような研究職員会を増やす。
- ・新たな教材化などの授業づくりに取り組む。

<小中連携指導>

- ・授業についての打ち合わせの時間を確保する。

学力把握のための学校としての取り組み

- （国語） ・ 学年末アンケート（3月） 少人数指導について
 - ・ 題を設定しての作文 文章作成能力の向上
 - ・ 月例テスト 漢字力のアップ
- （数学） ・ 診断テスト（4月） 実態の把握
 - ・ 月例テスト（学期に1回） 計算力のアップ
 - ・ アンケートの実施（3学期） 少人数指導の評価を含める
- （英語） ・ 月例テスト（学期に1回） 単語力のアップ
 - ・ 休み明けテスト（夏・冬） 基礎基本の定着度の確認

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

（校内研究会）

- ・ 7月17日 研究職員会 学力向上フロンティアスクールの取り組み
- ・ 11月18日 社会科研究授業 指導と評価の一体化について
- ・ 12月9日 保健体育科研究授業 表現活動について
- ・ 2月13日 校内研究会 現在の取り組みについて
- ・ 2月27日 授業研究会（数学・理科）少人数指導、指導と評価など（フロンティアティーチャー）

・ 小学校との連携

町内3小学校の6年生の授業に出かけ、TTによる指導を実施。

小学校間格差を解消するための「算数のまとめ」という問題集を作成。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

| | | | | |
|----------------------|--------------|------------|------|---------|
| 【新規校・継続校】 | ✓ 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | ✓ 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | ✓ 少人数指導 | ✓ T・Tによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | ✓ 国語 | ✓ 社会 | ✓ 数学 | ✓ 理科 |
| | ✓ 外国語 | ✓ 音楽 | ✓ 美術 | ✓ 技術・家庭 |
| | ✓ 保健体育 | ✓ その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | ✓ 有 | | 無 |